

平成 23 年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修

機械・環境建設系技術班 重松 和恵, 川口 隆

主 催：国立大学法人徳島大学
 研修期間：平成 23 年 8 月 24 日（水）～ 8 月 26 日（金）
 研修場所：徳島大学工学部（常三島キャンパス）

1. 目的

中国・四国地区国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校等の技術職員相当の職にある者に対して、その職務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門的知識、技術等を修得させ職員としての資質の向上を図ることを目的とする。

2. 参加状況

今回の研修における参加機関別受講者数は、表－1 のとおり 14 機関となっていた。また、各分科会別の受講者は土木・建築分野 20 名、生物・生命分野 27 名の計 47 名であった。

表－1 参加機関別受講者

参加機関	受講者数
鳥取大学	5
島根大学	2
岡山大学	3
広島大学	6
山口大学	4
香川大学	3
愛媛大学	3
高知大学	4
徳島大学	12
米子工業高等専門学校	1
呉工業高等専門学校	1
阿南工業高等専門学校	1
香川高等専門学校	1
高知工業高等専門学校	1

3. 研修内容

3.1 「大学・高専の技術職員に求められるもの」

徳島大学理事・副学長 福井萬壽夫

「これからのために大学職員が果たす役割は何か？」について、技術職員の組織から求められる能力・資質を詳細に示し、今後の取り組み方についての講演があった(写真－1)。

3.2 「新型インフルエンザ・インフルエンザ脳症、予防法と治療と最近の知見」

徳島大学疾患酵素学研究センター 教授 城戸博

基礎から実用へ、仕事に工夫をしい物を発信し自分の仕事にこだわる。そして「自分がその現象（仕事）を見つけたら自分がしなきゃいけないと思う。Why を明確にするために目標をもって仕事をしていくと面白い」といった教授自身の探求心と研究（仕事）にかけた講義があった(写真－2)。



写真－1 福井教授



写真－2 城戸教授

3.3 「学生指導に際してのヒント」メンタルサポート オフィスひといき講師 川瀬久美子

発達障害・アスペルガー症候群の理解と配慮について、臨床心理士の立場からの身近な症状を例に挙げ、周りがストレスにならない対処方法などについての講義があった(写真-3).



写真-3 川瀬先生

3.4 「橋梁の変遷と今後の展望」徳島大学大学院 STS 研究部教授 長尾文明

渦励振発生メカニズムから始まり、橋のライフサイクルコストまで世界の橋や身近な橋を写真で紹介するなど、その橋に愛着をもって欲しいという講義があった(写真-4).

3.5 土木・建築系実習Ⅰ

「風洞実験（揺れを防ごう）」

写真-5に示す小型風洞実験装置を用い、橋の模型（矩形断面ヒノキ棒）を風洞内に設置し、揺れる模型にケント紙で作ったフラップ（翼）を考案し風速を変動させながら”模型の揺れを防ぐ（安定化）”実験を行った。



写真-4 長尾教授



写真-5 風洞実験

3.6 土木・建築系実習Ⅱ

「液体窒素を用いたコンクリートの簡易急速凍結融解試験」

凍結融解試験は長期間で煩雑であるが、本試験方法は短時間で簡便であった(写真-6)。今後一般化されることを期待したい。



写真-6 凍結融解試験



写真－7 意志決定訓練

3.7 土木・建築系実習Ⅲ 「意志決定訓練（クロスロード）」

カードを使ったゲーム形式で防災教育を行った。被災体験や災害対策を問題としてとらえ、他の人と意見や、価値観を共有することにより問題解決を迅速に対応・適応出来ることの一助となった(写真－7)。

3.8 「次世代電気自動車に向けての新しい開発事業例の紹介」徳島大学大学院 STS 研究部教授 大西徳生

今の電気自動車の開発に携わる研究と安全管理。そして、なんでもいい”付加価値をつけるため”に研究(仕事)に取り組むという姿勢を持つという講義があった。

3.9 「ひと花咲かせたい植物工場」(講義名変更)徳島大学大学院 STS 研究部教授 野地澄清

いざというときに何もやってなかったらどうにもならない。生物は今や電卓発展の時代生物の進行状況に目を向けて欲しいと、研究と仕事の取り組みについての講義があった。



写真－6 大西教授



写真－6 野地教授

第一日目、三日目の全体講義では全般的に“仕事に興味を持つ”などと言った、仕事に対する取り組みの意識の講義が多くあった。第二日目の土木・建築系の実習では、2つのテーマで実習を行い、最後にクロスロードといった新しい試みに討議も盛んに行われた。研修の日程表を次ページに示す。

4. おわりに

今回の研修では、土木・建築系だけでなく、普段聞くことのできない医学系の研究に関する講義や徳島大学の特色のある学科についての講義を受講することができ、大いに刺激となり今後の職務遂行に大変有意義な研修であった。

最後に、本研修をお世話いただいた徳島大学の関係者の方々に深く感謝申し上げます。